

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000112		
法人名	(株)ワークサポート		
事業所名	グループホーム ことぶき		
所在地	北見市高菜西町7丁目2-2		
自己評価作成日	平成28年7月26日	評価結果市町村受理日	平成28年10月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [saku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JigyosvoCd=0195000112-00&PrefCd](http://saku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosvoCd=0195000112-00&PrefCd)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成28年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ことぶきの利用者様も高齢になってきており、年々1人ひとりの生き方や過ごし方、希望に応じた支援とはなにか、楽しみを持って笑顔で過ごすことができるような支援はなにかをスタッフ間で考え、新しい行事や利用者様と一緒にできることを考えてきました。まだまだ試行錯誤を繰り返しながらはあるが、もっと楽しみを持ち生き生きと過ごしてもらうことを実践していきたいと考えています。また、ことぶきの利用者様やスタッフを覚えてもらうためにも、町内会活動や地域の方々との交流に力を入れて取り組んでいます。年2回の避難訓練に加え、今年度は災害に備えた訓練も実施する予定で、さらに関係機関や地域の方たちとの連携、協力体制づくりに努めたいと思います

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームことぶき」は、2階建ての住宅地で、地域及び各関係機関に地域密着型認知症事業所として理解されるように働きかけています。近隣の方とは散歩時に挨拶を交わし、近くの保育園児や中学1年生との訪問交流があり利用者の楽しみとなっています。また、地域行事やグループホームの行事等を通じて互いに行き来し、利用者が地域とつながりながら生活できるように努めています。グループホームが地域から受け入れられ、地域や近隣の福祉に関する相談等にのったりアドバイスができるように努力しています。利用者の介護度が進む状況下でも、利用者一人ひとりの残存機能に合わせて役割を持った生活の支援がされ、認知症の症状にも個人に合わせた柔軟な支援ができるように努めています。自分の家族であれば、また自分だったらを考えて、職員は利用者により日常的に接するように努めています。定期的に職員への聞き取りを実施し、頑張ったところ、努力したところを評価することで 職員の介護力や仕事への取り組み姿勢が向上し、結果、利用者のケアへと還元されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所、スタッフ休憩室前に掲示し、日々理念に基づいて、笑顔で利用者に接するよう努めています	職員は、利用者1人ひとりの尊厳を守り、個々が行いたいことをできるだけ実現していただくために、個性に合せ、家族として笑顔の見えるように、また、理念の実践に繋がれるように努めています。また、職員が振り返りができるように管理者等は助言をその都度行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々とのつながりを大事にするため、外出時の挨拶や町内会総会、ごみ清掃や地域の花見等に参加、保育園児や中学生の訪問、ことぶきでの避難訓練、野外昼食会などで交流を図っています	特に「地域の中でその人らしく暮らせる」の理念に力を注ぎ、地域の自主サロンの情報交換やボランティアの訪問などの交流を図っています。町内会の花見参加や野外昼食会等の事業所の行事を住民と利用者が一緒に参加できるように広報し、交流を図り、認知症事業所として理解を広めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なかなか外部へ発信する機会が少なく活かしきれいないが、今年度はラン伴に参加し事業所として認知症への理解や支援を深めてもらいたいと努めています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	野外昼食会やお祭りなどの行事を兼ねることもあるが、年6回開催しそれに伴いことぶき通信を発行。専門の立場から意見をいただき、よりよいサービスが提供できるようミーティングや回覧にて報告し、向上に努めています	年6回開催される運営推進会議には消防署職員や警察駐在所員、近隣の高齢者住宅職員等を招き多彩なメンバーで開催し、専門家としてのアドバイスや、家族、地域住民と交流する中で得られた意見等を前向きな姿勢で取り組んでいます。	利用者や家族に順番性等の工夫で運営推進会議の参加を促し、出来るだけ多くの異なった立場から、意見や要望を得てより適正な事業所運営が図られることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者へ運営推進会議や各行事への参加のお願い、議事録やことぶき通信を配布しての取り組みの報告、利用者や介護サービスにおける相談、報告等こまめに連絡を取り協力関係を築くよう取り組んでいます	市の担当者とは、電話でのやりとりだけでなく、直接窓口を訪問し広報等を持参し、事業所の情報や行政の情報収集に努めています。また、運営推進会議に市担当者の参加・助言をいただくなど良好な協力関係が構築されています。地域包括とも連絡を取り合い、良い協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、日中はしていない。身体拘束に関する文書を掲示し、常に意識してケアに当たることができるよう取り組んでいます	「身体拘束防止委員会」や「虐待防止委員会」が組織され、研修や事例検討等を行っています。会議の中で身体拘束の内容と弊害を共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。言葉による弊害を意識し、気になる時はその都度、管理者等や時には職員同士注意を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々言葉遣いに注意している。スタッフ間でもそれぞれが意識しお互いに声をかけ防止に努めている。研修等に参加し内部研修にて虐待防止への意識づけに努めています			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談支援センターの職員より権利擁護についてのお話をさせていただいて学ぶ機会を持ったり、高齢で身寄りのない利用者に対しての後見人の必要性について市役所担当者と相談する方向で進めています			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険制度の見直し、変更による費用の負担額の変更等について、電話、文書による説明を行いご家族の同意をいただいています。また、疑問や要望についてもその都度説明を行い解決に努めています			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者はその都度、ご家族は受診や行事等での訪問時などに利用者に関することや運営に関する意見をうかがい、運営に反映させることができるよう努めています	野外昼食会等を行い職員と家族の交流に努めています。面会時や電話連絡時に家族に利用者の状況を積極的に伝え希望や意向、苦情を聞いています。聞き取ったことは面会時にノートなどに記録し職員間で共有し、希望に沿うように努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングに限らず通常の業務時にも常にスタッフの意見や提案を聞き入れ、代表者へも滞りなく伝えることができるよう努めています	管理者等が日ごろからよく話を聴くことで、良好な関係が図られています。職員からは、会議で介護に関する意見やアイデアが提案され、検討を経て運営に活かされています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、スタッフ個々の長所を引き出すことができるよう得意分野での仕事を任せたり、時給引き上げや正社員への昇格の働きかけ等、向上心を持って働くことができるよう努めています			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修のみならず外部研修の案内はスタッフに回覧して周知し、できるだけすべてのスタッフが研修に参加することができるよう業務時間内でも研修に参加しやすい環境整備に努めています			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高齢者相談支援センター主催の研修に参加し、同業者との交流を図りお互いにサービスを向上させていくことができるよう取り組んでいます			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	利用者本人がどのようなことに困ったり不安に思っているのか、またどんなことを望んでいるのかを聞き出し、いつでも自分の思いを伝えることができるような関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めています	どのようなことに困り、どのようなサービスを望んでいるのかをきちんと把握し、家族の不安や困りごとが解消されるような関係づくりに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています	現状一番必要としているサービスの提供のための手段の説明や、それに付随して他にも受けたいサービス等を受けることができるよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位を基本に、介護者だけではなく利用者同士ができない部分をお互いに補って生活することができるような関係づくりに努め、また、家族に近づけるようコミュニケーションを図っています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族がいつまでも絆を大切に過ごすことができるよう、家族との関わりも大切にしています。訪問時の対応や遠方の家族には手紙に写真を添えて日々様子がわかるよう努めています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めています	近所の友人やなじみの人たちが遊びに来られた時には、その方々との関係をずっと続けていくことができるよう、またなじみのお店等へ同行してなじみの関係が途切れないよう努めています	家族・友人・知人の来訪の時は、ゆったりと過ごしていただいています。また、美容院・買い物・飲食等の希望や馴染みの人・場との関係継続の支援ができるように努めています。外泊や墓参りの支援など要望があれば支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めています	利用者同士の関係性を見極め、気の合う利用者同士だけではなく、共に生活をしている仲間として孤立せずお互い支え合えるような支援に努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めています	本人や家族からの要望や、その方が移動した施設等からの相談などについても支援できるよう努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりがどのように暮らしたり過ごしたいのか、日々の会話の中や意向の確認を行い把握に努め、困難な方は本人本位に検討はしていますが十分ではありません	職員は、1人ひとりの表情や行動の変化を捉え、ゆったりと話を傾聴したり、表情で利用者の楽しみや行いたいことを把握しています。また、本人本位で安全に実現するために努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族からの今までの生活や普段からの習慣、生活環境などを聞き取り、また入居後も普段のコミュニケーションの中で把握していけるよう努めてはいる十分ではありません		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お部屋でテレビや読書をして過ごす方や、その日の体調等(傾眠が多い、歩行が悪いなど)を考慮して休んでもらうなど、1人ひとりの心身状態が把握できるよう努めてます		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方について日々の業務の中でスタッフ間とケアマネで話し合ったり、ミーティング等で話し合い、介護計画を作成しています	希望については、聞ける場合は利用者本人に聞き取りし、職員会議やモニタリングを経て計画を作成しています。利用者により状態や状況は様々であり、職員は残存機能を維持し穏やかに生活ができるよう策定に取り組んでいます。	職員全員が利用者一人ひとりの介護計画を把握できる工夫と、介護計画に沿ったサービス提供が生活記録に反映できる工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフそれぞれが個別に日々の様子を記録に残し情報の共有を図っています。しかし共有からケアを統一するために時間を要するなど厳しい部分もあります		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事や受診、外食や買い物等、その時のニーズによって対応できる部分は取り組んでいるが、設備や人員の関係等によっては難しいサービスもあり、柔軟に対応できていない部分もあります		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問内容や近くの商店などを利用したり、避難訓練や行事等を通じて1人ひとりを知っていただく機会を増やし、地域の中でその人らしく暮らせるよう支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する病院へ受診できるよう支援している。家族対応だけで難しい時などは同行したり添書を添えるなどの支援や、往診等の依頼により適切な医療が受けられるよう支援しています	今までのかかりつけ医、希望する医療機関への受診は基本家族対応になっており、家族の協力が難しい時は事務所が行っています。週1回の訪問看護の健康管理や状況に応じた医療機関、整骨院の往診の支援は利用者の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師がいないため、訪問看護と医療連携し日々の利用者の状態を診てもらっています。相談やアドバイスによって受診や夜間の対応の相談などにより適切な看護が受けられるよう支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護添書の提供、入院中に面会し医師や看護師と情報交換を行ったり、早期退院に向け施設として対応できることの確認や退院後の支援のあり方について相談するなど努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアの実績はないが、必要な時のために研修は受けている。家族からの意向確認はとれているが、高齢化や病気の悪化等により家族の意向も変化する場合があるためその都度早めに確認を取り、医師や看護師とも方針の共有を図り支援できるよう取り組んでいます	契約時に重度化や終末期に対して利用者や家族の意向、思いを確認しながら医療関係機関と連携しターミナルケアが出来る体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急手当の方法や急変時の心肺蘇生の方法などについて研修やミーティング等で学んではいるが、定期的には行われておらず十分ではありません		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施している。災害時の訓練について、マニュアルの作成はできているが訓練等実施できていない。9月に災害訓練を実施する予定です	年2回消防署の立会いのもと、社会福祉課や民生委員、高齢者支援センターなどの方々の協力を得、水消火やスモークマシンを使い避難訓練を実施しています。事前に近隣へチラシを配布、当日は拡声器を使い訓練への参加を呼び掛けています。今年の9月には地震や停電、断水などの自然災害に対応した訓練、炊き出しを実施します。	近隣への呼び掛けをし避難場所の協力はありますが、町内会の避難訓練への参加がないため、更なる利用者の安心安全に繋げるよう町内会の参加が得られるよう期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なれ合いになってしまうことがありスタッフ間で声をかけ合うようにしている。今年全社員対象にマナー研修を実施し人格を尊重する対応ができてきているかの確認等を行うなど取り組んでいます	職員は、利用者に対し馴れ合いにならないよう人生の先輩として尊厳を尊重するよう心掛けています。職員同士緊張感を持ち注意し合える関係ができています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がしたいこと、行きたい場所など希望を聞き出したり、自発的に自分の思いを表すことができるよう努めています			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で休みたい、好きなテレビを見たい、昼寝をしたいなどできる範囲で1人ひとりのペースに合わせた支援はしているが、入浴や外出、買い物など希望に沿えない支援は難しいと感じています			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだり髪を整えて結ったりとしています。定期的に訪問理容があり散髪や顔そりをしてもらうなど身だしなみが整えられるよう支援しています			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー表を貼って見れるようにしたり、盛り付けや季節感のある食事を提供するなど工夫をしている。食事作りは利用者間のトラブル等があり行っていないが、おやつと一緒に作って楽しむことができるよう取り組んでいます	利用者にバランスの良い食事を提供しています。誕生日には外食や野外昼食会、バイキングなど趣向を変えて食事が楽しくなるよう取り組んでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食事を提供しています。その日の体調に合わせて食事量や形態を変えるなどの工夫をしたり、水分も飲み物だけではなくアイスやゼリー等を使いムリなく必要量を確保できるよう工夫して提供しています			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアをしている。支援が必要な利用者はきれいにケアできているが、自立されている方の口腔ケアや口腔内の確認はできていません			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認して個々に対する声かけをしたり、できるだけオムツを使用しなくても済むよう日中だけ布パンツで過ごしてもらう、失禁があってもトイレでの排泄が続けられるよう支援しています	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、不安にならないように声掛け誘導などで自立したトイレでの排泄を心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後の飲水、食事や水分をきちんと摂ることができるよう声をかけたり、体操への参加で体を動かす、便秘がちの人にはヤクルトを提供するなど取り組んでいます		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	設備の問題上、利用者の希望する時間等で入浴することが難しい。少しでも楽しんでもらうことができるよう何種類かの入浴剤を用意したり体調を考慮しながらゆっくり入ってもらうなどの支援をしています	季節を感じるゆず湯などを取り入れ利用者の状況や体調を考慮しながら週2回入浴出来るよう支援しています。利用者1名の同性介助希望にも対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調等に応じて横になって休んでもらったり、布団干しや寝具の洗濯、気温に応じた布団を使用するなどしている。見守りやトイレ支援が必要な利用者は安眠できていないと感じている方もいるかもしれません		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診等で薬の内容が変更や追加になった場合は、必ず申し送りに記載しスタッフに周知している。個々の状態に合わせて薬の服用方法や時間など医師に相談し変更するなどの支援に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日に夕食、暖かい時期には野菜作りやドライブ、花見、買い物など外に出るようにしている。おやつや飾り物、季節に応じて短冊や書き初めをしたり、まだ不十分ではあるが少しずつスタッフ間で話し合いを持ちより気分転換が図れるよう努めています		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩や外気浴、ドライブ、花見等に出かけたり、記念日に夕食、病院の受診時に家族と夕食をしたり家族や地域の人を交えて外での昼食会を開催するなど外へ出かけられるよう支援しています	利用者の希望や体調などに配慮し、近所のお店へ散歩しながら買い物等に出掛けています。町内会の花見や桜見学、菊まつり、「RUN伴」に参加するなど外出する機会を作り気分転換に繋げています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を管理することができる利用者はお小遣い程度の金額のお金を持ち、近所のお店に買い物に行っている。多くの利用者は家族の希望もあり事務所で管理、買いたい物などに応じて使えるよう支援しています		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる家族や孫に電話をかけたり、耳が遠く自分では聞き取りにくい利用者にはスタッフが内容を伝える、書いた手紙を預かりポストに投函するなど、やり取りができるよう支援しています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の感覚によって居心地のよさは違うが、季節感のある飾り付けや配色、音の大きさなどに配慮している。また日々清潔に保つことができるよう心がけています	リビングにはソファやテーブルが配置され、ぬり絵や折り紙、お笑いのDVD鑑賞など利用者が自由に過ごせ居心地良く落ち着ける雰囲気になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本や手紙を書きたい利用者は食卓テーブルに移動してゆっくり書いてもらったり、テレビを見ながら隣の利用者同士でお話ができるようにするなどしているが、スペース等の問題でなかなか思い思いに過ごせる居場所は確保できていません		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室で過ごすことが多い利用者は使い慣れた物や好みのものを置き居心地よく過ごせるよう自分なりに工夫している。転倒等の危険がありお部屋に置けない利用者もいるので個々に居心地よく過ごせる環境になってはいいかもしれない	居室には利用者の使い慣れた筆筒や寝具、テレビ等が持ち込まれ、自分らしく安心して過ごせる工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の部屋がわかるよう工夫し、障害物(コード等)置かないよう配慮している。しかし、1人での行動に危険がある利用者に対しては安全な環境づくりができていないように感じます		